

## 第5回 英語学教育FD/ICT活用研究委員会 議事概要

日 時：平成24年1月24日（火）16：00～18：00

場 所：私立大学情報教育協会 会議室

出席者：山本涼一委員長、田中宏明副委員長、五十嵐義行委員、北出亮委員、  
小林悦雄委員、西野春雄委員、山本英一委員  
（事務局）井端事務局長、森下主幹、松本職員

### 検討事項

今回の検討事項は学士力の実現に求められる教育改善モデルの「教員の教育力」であり、高度な専門職である大学教員に求められる知見とはどのようなものであるのかについて議論を行った。

高度な専門職である英語教員に求められる専門性を下記の3点より検討した。

#### 1. 高い知識

- ・ 高等教育で学び研究したこと（英米文学・言語学など）を通して、異文化・異民族・リベラルアーツへの理解がある。
- ・ 専門分野での体験・経験知を通じて、文化や社会を熟知し、コミュニケーションなどの新しい分野の知識を有する。
- ・ 外国語の言語に関する専門分野の知識やメタ言語能力（母語の文化・言語・社会の理解）を有する。
- ・ 専門知識を応用して物事の判断ができる能力を有する。
- ・ 他文化の高度な知識や文献に接して、それを取り入れ教授する能力を有する。
- ・ 言語比較を通じた言語の本質を探る能力を有し、それを英語教育へ応用できる能力を有する。

#### 2. 教員の使命

- ・ 物事の真理を継続して探究していく意欲や関心があり、それを教授すること。
- ・ 大学の建学精神を実現するための教育を実践し、よりよい市民を育成すること。
- ・ 異文化・異民族・リベラルアーツを理解するための視点を有し、それを教授すること。
- ・ 言語教育の本質を見る力を有し、それを活用できること。

#### 3. 技術・技能

- ・ 言語能力（語彙・文法など）
- ・ 言語運用能力（言語を手段として、社会で活用する能力）
- ・ 言語使用の専門的知見を対象によって構造化して運用できる能力
- ・ 生存するためのコミュニケーションを重視した共通言語の使用能力

#### 4. 専門性を裏付ける教育の方向性

- ・ 世界に関与し、世界を見据えた英語教育
- ・ 世代のニーズに対応した英語教育
- ・ アジアを中心とした、交流可能な英語教育
- ・ 生活・生き方を前提とした英語教育

#### その他の検討事項

以前にまとめた「英語教育における教育改善モデル」の一部を修正した。

#### 次回の検討予定

本日の会議で今年度は最終とし、来年度は教育改善モデルの一部修正、およびスケルトンの表現を見直し、大学ガバナンスに理解を深めていただくような表現を付加する。たとえば、図やケースの紹介などの参考事例についても検討する。また、教育方法の内容を精査する。いずれも9月末を目処に検討を進める。